

## 民主党オープンフォーラム

「近現代史研究会」2014・3・26 17:00~18:00

衆議院第2議員会館B2 民主党政調会室

講師 三谷太一郎 日本学士院会員・東京大学名誉教授

演題 第一次世界大戦後の東アジアにおける国際政治体制

—冷戦後の世界を考える手掛かりとして—



三谷講師は講演の冒頭で、

「政治の任務は理念的には正義の実現であり、秩序をつくるというのが重要な任務。秩序は最低限の正義である」

といわれて、国際政治秩序の多極化（アナーキー化）の現状を指摘し、政治家のなすべき重要な歴史的事業への参画を、静かに要請されていました。

そして後段での第一次世界大戦の「戦後は終わり、新しい戦前が始まる」という発言を、現状に重ねあわせて受け止めるとき、なすべき重要な事業は明らかです。

それは藤井座長が最後に発言された「わたしは国連だと思う」というひとことに深く正確に示唆されています。



藤井座長が再開のあいさつ

- ① ナショナリズムを超える理念として、わが国が大戦後を通じて「一以貫之」し、高く掲げてきた「全世界平和」を旗幟として、多極化した現実に適合した国際政治秩序の構築をおこなうこと。
- ② 「国連」への参画を強化すること。国連大学ばかりでなく、「国連」のさまざまな機関を招致、本部・支部を常設すること。分担金に見合う有為な人材を本部に送って平和活動に加わり、わが国の人的な存在感を示すこと。
- ③ さらには敗戦後の「日本の夢」だった「東洋のスイス」を思い起こして、さまざまな国際機関・組織の本部・支部を招致し、常設して、常時、国際会議をおこない、世界の人びとが集う国際交流事業を展開する。
- ④ 人生に一度は行ってみたい国「平和な日本」をめざす。  
四季おりおりの自然と風物は、一度ではなく、春・夏・秋・冬の四度の訪れとなる。それはまた、四倍の日本を享受することになる。

国、人種、宗教を問わず、だれにも友好的「お・も・て・な・し」のできるわが国は、国防軍の強化に向かわず、現行憲法のもとでの「平和主義」に徹するべきで、訪れる世界の人びとがわが国に「人類の英知」を認めてともに守ることになります。

一方、中国への必要以上のナショナリズム攻撃は、お互いの相手ニクシの世情を固定化し、国民にいわれもない対立意識を醸成することとなる。

上の①から④の立場を保持しつづけることによって、隣国民との対立関係はすみやかに解消できるだろう。

民主党の「歴史に学ぶ」フォーラムの再開をよろこぶとともに、民主党の再建こそが、この国の新たな平和国家への道程であることを確認しておきたい（堀内正範 記）